

神戈陵を渡る風2

令和4年度 川辺高校 校長通信 第093号(通算)

令和5年3月1日(水)発行

三月になりました。昨日、3年生が卒業式を迎え、淋しい気持ちがあります。しかし、明日からは、新入生を迎えるための高校入試が始まります。そのために皆さんは、今日から自宅学習期間に入ります。この期間は、春休みではありません。新学年に向けた準備を行う大切な時期だと肝に銘じて欲しいです。油断して通り過ぎた時間は戻ってきません。新たな目標を得るために、読書にはげむことも大切でしょう。高校に入学してから今までの学習を振り返ることも大切です。今の自分に必要なことは何なのかきちんと捉えることが大切です。まずは行動しましょう。



卒業式式辞より

現在コンピューターの存在しない世界など想像もできません。それは単に「コンピューター」がないという事象に止まりません。当然「スマートフォン」もなく、そればかりか、機械で製作している物や、機械で制御している物のほとんどが作れないということになります。更に、「インターネット」という便利なものも存在するはずがありません。そのような世界は、想像もつかないと思います。では、「コンピューター」を生み出したのは一体誰なのか？ というと、それは「コンピューター科学の父」と呼ばれているアラン・チューリングという一人の天才数学者の発想が元になっています。まだ誰もコンピューターそのものを思いつかなかった時代に「思考する機械」というアイデアを生み出しました。これは、「作家が想像で生み出す」と異なり、彼は「どうすれば数学的に『思考する機械』が実現可能か」という、現在のコンピューターの核となるアルゴリズムを考え出したのです。チューリングの存在がなければ、今のような形のコンピューターが生まれなかったかどうかは分かりません。別の誰かが同じようなアイデアを出したかもしれません。しかし、一つ確実に言えることは、コンピューターというアイデアが生まれるのが遅くなれば遅いほど、その後の社会の進化も遅くなってしまふということです。私たちが「便利な社会」に生きられているのはチューリングのお陰だと言っても過言ではありません。そ

のような彼は、第二次世界大戦中にドイツ軍のエニグマ暗号を解読した英雄として、今でこそ知られていますが、この世界大戦中から戦後の長い間、彼の功績は軍の最高機密として秘され、それに加え、偏見に打ちのめされた不遇の人でした。世の中を変えたのは、たった一人の天才数学者の仕業ではありません。人付き合いが苦手な彼でしたが、彼と一緒に研究した仲間たちが共に彼の発想を支援したからこそ、暗号解読という偉業を達成しました。その後も多くの研究者が彼の発想を繋げたからこそ、現在のようなコンピューターが完成したのです。本校も、一昨年、皆さんと共に学校創立百二十周年記念式典を行いました。学校も、皆さんも、貴重で節目となる式典を経験し、これまでの伝統に加え、新たな歴史を紡いでいきます。これからは、常に真摯に主体的に動く生き方を送ることが大切です。皆さんには、無限の可能性があり、自分を信じ、可能性に賭ける勇気と決断力が不可欠です。全力を尽くすことが、これからの生き方を切り開くことになります。しっかりと前を見据えて、自分の道を堂々と歩いていってください。



川 辺 二 日 市

令和5年2月4~5日

川辺二日市は県内三大市の一つとされ、江戸時代天明年間に周囲の農民たちがワラ細工や竹製品を持ち寄った市が始まりで約230年続いています。コロナ禍ですが、3年振りに二日市が開催できました。今回も川辺高校生は沢山参加しています。地域の伝統行事に参加し、体験することで、一人でも多くの生徒たちに、それらを引き継ぐ感覚・意思が生まれてくると嬉しいです。その活動の様子を写真で紹介します。

【1日目】



3年振りということで、在校生にとっては、初めての二日市の参加でした。



MBCテレビの生中継もありました。緊張しながらも立派にインタビューに答えていました。

【2日目】



色々と活躍しました。